

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

フェアリーペンギン

【英名】 Fairy Penguin

【学名】 *Eudyptula minor*

「ペンギンの生態」エリアにいます、「赤ちゃんペンギンがいる!」という声をよく耳にします。しかし、指をさした先にいるのは、十中八九こちらのフェアリーペンギンです。世界に18種いるペンギンの中で1番小さいフェアリーペンギンは、成鳥でも体高30cm、体重1kgほどしかありません。ペンギンのヒナはふわふわとした綿羽に覆われていますが、展示場にいるフェアリーペンギンの羽は、よく見るとしっかりと水を弾くおとなの羽であることがわかんと思います。この羽は、生息地の一部では「ブルーペンギン」と呼ばれるほど青い色が特徴です。10月ごろは全身の羽が生え変わる換羽が終わる時期。青い羽が特に綺麗に観察できます!

(飼育展示係 内山 幸)



CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 元気いっぱい! ハガツオがやってきた

なぎさNEWS

- にぎやかな夏のなぎさ
- なぎさで探そう! こんな生き物「カクベンケイガニ」

水族園のもう一つの顔

- 水族園で楽しむ夏の夕涼み
- フェアリーペンギンの卵 8,000kmの旅

TSLP LATEST

Vol.23 No.5 2025

OCTOBER

通巻

124

SEA LIFE TOPICS

元気いっぱい! / ハガツオがやってきた

「大洋の航海者 マグロ」水槽では、クロマグロを筆頭に、同じサバ科のスズメダイとハガツオを展示しています。その中でハガツオは、収集・輸送に適したサイズの入手が不安定で、ここ数年は新しい個体を入れることができていません。そんなハガツオについて、「久しぶりに良い群れが来たよ!」という有益情報も鹿児島県の協力者からもたらされたのは7月初旬のこと。今回は、鹿児島県から車で1,400kmを旅したハガツオ達の搬入の様子を紹介します。

① 活魚トラックから取り上げる

トラックのイキスから、特製のタンカを使って1尾ずつ丁寧に取ります。取り上げと同時に、タンカに入れた魚の頭の向きと柄の部分に巻いた赤や黄色のテープを紐づけて、「頭、アカ!」と伝言ゲームがスタート。

② 細心の注意を払って運ぶ!

トラックから取り上げられたハガツオは、タンカごと人の手によって所定の場所まで運ばれていきます。はやる気持ちを抑えながら転ばないように、できるだけ速いスピードで運んでいきます。人も魚も安全第一!

③ ハガツオ、宙を舞う!?

ハガツオが到着したのは水族園の1階で、水槽への放流場所は実は2階。安全とスピードを最優先に考えると、2階に通じる吹き抜けから1階におろしたロープでハガツオをつり上げるこの方法が、一番良いのです。

④ 2階に到着、水槽まであと少し!

最短距離で1階から2階へと移動してきたハガツオ達。次のスタッフに、頭の向きの伝言とともにタンカが託されます。ここから最後の階段を上っていいよゴールは目前です!

⑤ 水槽へ放流

長い旅路の終着点、いいよ水槽へ放流です。伝言ゲームで頭の向きを伝えてきたのは、実は放流を頭からおこなうため。頭から泳ぎだせば、すぐに他のハガツオを見つけて群れに合流することができ、衝突などの危険を大幅に減らすことができるのです。

こうして無事に水族園に搬入されたハガツオ達。搬入直後はクロマグロの迫力に怯え、水槽の隅にかたまりエサを食べることもできませんでしたが、今ではエサも食べ水槽にも馴染んだ様子です。これからドンドン大きくなるハガツオ達の成長をぜひお楽しみに!

(飼育展示係 増淵 和彦)

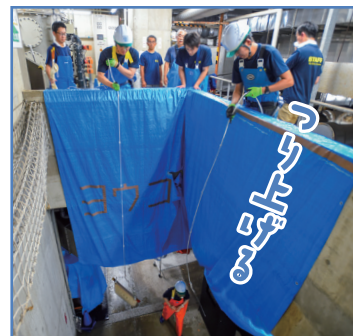
トラックが到着。さあ、準備開始



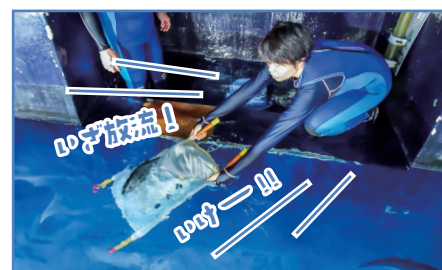
屋外 ▶ 1F



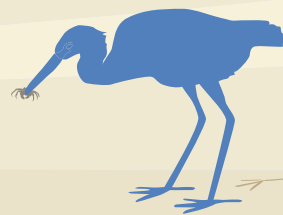
1F ▶ 2F



2F ▶ いいよ水槽へ!



なぎさ NEWS



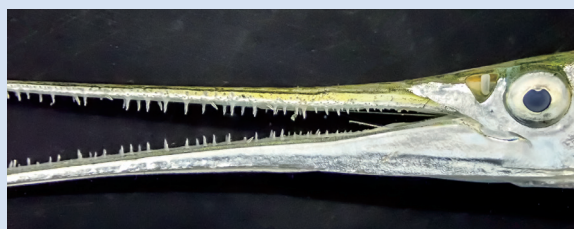
にぎやかな夏のなぎさ

8月の地曳網調査では、さまざまな生き物が見られてにぎやかな「西なぎさ」の様子が確認できました。調査当日は天気良く、海水浴体験イベント開催中の「西なぎさ」では、多くの人が東京湾の海を楽しんでいました。そのすぐそばの干潟の泥の上に無数のつぶつぶが散らばっていたのですが、それらが全てカニだと気づいた時には驚きました。干潟に巣穴を掘ってくらすヤマトオサガニがすごい密度で活動していたのです。

さて肝心の地曳網調査ですが、こちらでもさまざまな魚たちが確認できました。サッパ、コノシロ、トウゴロウイワシ、マゴチ、ヒイラギ、シロギス、ギマなど、みんな小さな幼魚なのですが、夏らしくバラエティ豊かでした。その中で2021年以来、久しぶりに採集されたダツを紹介します。ダツは1mほどになる魚で、東京湾でも良く見られますが「西なぎさ」では珍しいです。今回採集されたダツは最大30cmほどでしたが、小さいながらも細長いあごの中には鋭い歯がたくさん生えていて、小魚などを捕らえて食べていることがうかがえます。（飼育展示係 三森 亮介）



ダツが採れた



鋭い歯がいっぱい

なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★ ☆

サイズ 甲幅2cm

見つけるコツ

「西なぎさ」の海にむかって左側、防波堤の岩場のすきまをのぞいてみよう。あしなど体の一部が見えるかも。ただし、捕まえるのは至難のわざ。動きがはやく、すぐに逃げてしまう。捕まえたい時は、すきまから出てきたところねらおう。ためらわずに両手でおおうようにするのが良いよ。

カクベンケイガニ（イワガニ科）

■カクベンケイガニはこんな生き物

「西なぎさ」の岩場でくらしているよ。甲羅は四角形で平たく、まだら模様をしていて岩にそっくり。じっとしているとなかなか見つからない。とにかくすばやくて、ちょっと人が近づくと、すぐに岩のすきまに入っていくよ。長いあしを折りたたみ、すきまにぴったりにおさまるんだ。何に役立っているかはわからないけど、あしに太く短い毛が生えているのも特徴の一つ。岩場に打ちあがった死んでしまった生き物や海藻などを食べるよ。

（飼育展示係 西村 大樹）

カクベンケイガニ（実物大）



水族園 のもう一つの顔

水族園で楽しむ夏の夕涼み

水族園では、毎年8月のお盆期間中、開園時間を延長し、さまざまな催しをおこなっています。今年はテーマを「水族園で夕涼み」とし、暑さのやわらぐ夕方からの時間を中心に、潮風に涼みながら楽しめる屋外イベントを企画しました。テントデッキで実施した「寿 流江戸川太鼓」の和太鼓演奏会は、力強い太鼓に合わせ高らかに鳴るホラガイの笛の音が印象深く好評でした。2日目は東京都江戸川区で活動している視覚障がい者の方々の和太鼓サークル「楽鼓の会」の皆さんが加わり、盆太鼓の演奏と共に来園者の皆さんと盆踊りを楽しみました。水族園ならではの園長・副園長のトークです。事前に綿密な打ち合わせをしていたにもかかわらず、いざ実施してみるとアドリブに近くひやひやする場面もありましたが、参加者の方々に楽しんでいただけたようでほっとしました。その他、自由に触れる氷柱の展示やクロマグロをモチーフにした氷の彫刻の実演、冷たいオリジナルドリンクの販売など、夏ならではの内容を充実させました。今年の夏の思い出は？と聞かれたら、とにかく暑かったと言いたところですが、思い出の1つにこのイベントが加わってくれたら嬉しいです。(教育普及係 高濱 由美子)



見ているだけで冷たい！ 氷でつくったクロマグロ

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 8/2-9/14 暑熱対策のため、ペンギンのスポットガイドを中止
- 8/4 「サンゴ礁の海」水槽にルリスズメダイを展示
- 8/6 「大洋の航海者 マグロ」水槽にハガツオを52尾追加
- 8/10-14 「水族園で夕涼み」を実施
- 8/17 「小笠原の海 4」の小水槽で今年生まれのアオウミガメを展示
- 8/23 東京動物園友の会ジュニア会員向けイベントを実施
- 9/11 「南シナ海」水槽でスジアラを展示
- 9/20 小学3・4年生向けプログラム「海のアそびや」実施
- 9/21 小学5・6年生向けプログラム「集まれ！ 汐っ子たち」実施
- 9/27 東京動物園友の会会員向け「友の会の日」開催

フェアリーペンギンの卵 8,000kmの旅 ✈

水族園では1991年からフェアリーペンギンの飼育を開始し、遺伝的多様性を保てるよう計画的に繁殖を進めてきました。しかし、血縁関係の近い個体が多くなり、新しい血統を導入する必要がありました。生体を運ぶ場合は感染症のリスクなど多くの課題があるため、有精卵(受精した卵)の導入という新たな方法に挑戦し、7月にオーストラリアのバララット野生動物園からの卵の輸送に成功しました。

8,000kmをこえる長距離の輸送に欠かせないのは、卵を人工的に温めるふ卵器です。今回使用したのは携帯用のものですが、6kg弱と重く揺れや衝撃に注意する必要がありました。車内では、クッションの上にふ卵器を乗せ膝の上で抱えるような姿勢で運びました。飛行機でも、ふ卵器用に確保した席にシートベルトとクッションでしっかり固定しました。数時間おきに温度と湿度を確認しながら慎重に運び、水族園に到着したのは現地を出発してから約26時間後のことでした。今回卵は1つがふ化し人工育雛を行いました。残念ながら3日後に死亡しました。ヒナの育成にはいたりませんでした。卵の輸送とふ化に成功したことは大きな一歩です。

(飼育展示係 齊藤 美和)



携帯用のふ卵器とその中身。濡らしたペーパータオルで湿度管理



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

水族園のさまざまな係のメンバーが集まり一致団結しておこなう大きな作業の一つに、マグロ類の搬入があります。本文にある例の謎の伝言を伝えながら確実に運んでいく、水族園流のやり方です。今号では、ハガツオを例にマグロ類の搬入作業を紹介しました。皆さんにその臨場感をお届けできたでしょうか？

(高濱)

SEA LIFE NEWS 通巻 124

Vol.23 No.5 2025 OCTOBER 10月1日発行(次号は2025年12月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

